

# さわやかワークセンター

## 令和元年度事業報告

### 1. 運営方針

- ・ 就労に向け、希望を失わず、1人ひとりが明るくさわやかに作業や訓練に取り組み、自信をもって就労に踏み出し、仕事を続けながら地域で暮らし続ける場と機会を提供します。

### 2. 職員等配置 (3/31 現在)

職員 11 名・非常勤職員 22 名 合計 33 名

### 3. 今年度の重点目標に対する取り組み状況

	重点目標	具体的取組の内容	回数・日付	人数延	法人重点
1	就労や地域生活の安定を目指して関係機関との連携を強化し「切れ目のない支援」を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労定着支援事業 (10 月より開始)</li> <li>・計画相談面談同席 (さんさん幸陽)</li> <li>・就労促進担当者会参加</li> <li>・就労移行支援事業所連絡会参加</li> <li>・就労移行支援新規利用者開拓の取組みとして関係機関との連携</li> <li>・施設利用希望実習受入</li> </ul>	- 毎回随時 12 回 12 回 随時 2 回	7 - 24 12 - 2	1)
2	持続的 생활が可能な収入 (就労賃金・工賃) の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーラボ作業 (新規)</li> <li>・おおむすび縁市場販売部 ート開始</li> <li>・新規受託作業準備打合せ</li> </ul>	92 回 36 回 随時 -	552 108 -	1)
3	生活の場の確保と個別支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホーム利用希望者への情報提供、サービス利用への支援</li> <li>・高齢利用者への介護保険サービスの情報提供、サービス利用への支援</li> </ul>	- -	6 5	1)
4	飲食事業の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティーラウンジすばる営業開始 売上 6,637,520 円 (月平均売上 553,127 円)</li> <li>・カフェコスモ 売上 13,994,814 円 (月平均売上 1,166,235 円) (前年売上 1,330,545 円)</li> </ul>			1)
5	公益的取組の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型学習支援事業『れいんぼう大森』の活動を部 ートし、フードバンクからお米を試行的に受け入れ食を通したプログラムに寄与</li> <li>・中間的就労受入についての相談</li> <li>・地域防災パトロール参加</li> </ul>	12 1 18		2)

#### 4, 利用者受入等・平均工賃 \*日数・%等は前年同期比

	定員	開所日数	平均利用者数	稼働率		利用率	
就継B型	34人	250日(-2日)	38.7人	113.8%	+13.5%	83.7%	+2.0%
移行	6人	250日(-2日)	8.3人	130.0%	+37.5%	94.9%	+13.3%
定着	登録者数9人						
就継B型	平均工賃月額		41,789円	前年度	41,664円	+125円	
移行	平均工賃月額		38,712円	前年度	35,097円	+3,615円	

※平均利用者数＝全利用者の年間延利用日数÷開所日数（小数点第2位以下切り上げ）。

※稼働率＝年間利用者延べ数÷（定員×開所日数）

※利用率＝年間利用者延べ数÷（在籍数×開所日数）

\*就労移行利用者の就労者2名、B型1名

#### 5, 年間行事

4月	花見会(樹林館との合同開催)利用者46名参加
5月	リフレッシュDo(ボーリング)利用者29名参加
6月	リフレッシュDo(クッキング)利用者18名参加
7月	リフレッシュDo(カラオケ)利用者19名参加
8月	リフレッシュDo(カラオケ)利用者22名
9月	リフレッシュDo(ダンス)利用者18名
10月	リフレッシュDo(しょうがい者の日のつどい)利用者23名
11月	研修旅行(伊東方面)利用者44名 リフレッシュDo(トリックアート)利用者27名
12月	リフレッシュDo(クリスマス会)利用者26名
1月	新年会(成人・還暦を祝う会)利用者38名
2月	リフレッシュDo(ビール工場見学)利用者22名
3月	就労を祝う会利用者39名

#### 6, 地域公益活動の推進

	実施項目	具体的取組の内容	回数	人数(延)
1	地域まつり	・第12回蓮沼ふれあい祭実行委員会実施 (第12回蓮沼ふれあい祭は台風19号のため中止)	3	6
2	食糧等配達	・「コスモ苑」へ月1回食糧等を配達	12	12
3	コミュニティスペース運営	・食堂をコミュニティスペース「茶和や」として地域へ開放	毎日	-
4	広報誌活動等	・「さわやか通信」発行(4月 9月 11月 1月)	4	

## 7. 地域・関係機関連携

	実施項目	具体的内容	回数	人(延)
1	地域交流・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第12回蓮沼ふれあい祭企画、運営(事務局)</li> <li>・地域防災パトロール参加(月2回)</li> <li>・西蒲田二・三丁目自治会防災活動拠点会議参加</li> <li>・東京工科大学医療保健学部の学生が施設見学</li> <li>・東京工科大学医療保健学部の学生とスポーツ大会実施(11月)</li> <li>・田園調布特別支援学校実習受け入れ</li> </ul>	5 18 5 1 1 2	10 18 10 15 20 2
2	福祉人材受入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士相談援助実習受け入れ</li> <li>・中学生職場体験受け入れ・すばる(志茂田中、蓮沼中)</li> <li>・作業補助ボランティア受け入れ</li> <li>・人事院公務員研修の受け入れ(池上福祉園と連携)</li> </ul>	3 19 38 2 2	3 19 74 6 5
3	広報活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さわやか通信」4回発行(4、9、11、1月)</li> </ul>	4回	-

## 8. 人材確保・育成とサービスの質向上の取り組み・研修

目的：職場の研修ニーズアセスメントに基づき、専門職としてのキャリア形成を念頭に人材育成

	実施項目	具体的取組の内容	回数	人(延)
1	OJT・職場内研修	OJTチェックシート実施、キャリア形成シート、事例検討会議(支援会議内にて実施)、虐待防止研修、階層別研修	23	48
2	外部研修	障害者虐待防止研修(区) 福祉・介護職員等特定処遇改善加算説明会 防火防災管理者講習 東京都社会福祉協議会「初任者研修」消費税軽減税率制度説明会 3年目職員研修 相談支援現任研修 セルフ商品販売力向上セミナー	10	13
3	自己研鑽支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修の情報提供(研修資料の回覧)</li> </ul>	随時	-

## 9. 権利擁護・虐待防止の取り組み

	実施項目	具体的取組	回数	人数
1	虐待防止 権利擁護	大田区主催「障害者虐待防止研修」	3	3
2	苦情解決	<p>総件数3件(内訳：コスモ2件 地域1件)</p> <p>内容：コスモのお客様から非常勤職員の言葉遣いについて苦情が入り、職員向けにコスモ店舗内研修を実施、接客等について改善がみられた。解決済み</p> <p>内容：公園清掃時、非常勤職員の言葉遣いについて苦情が入り、職員に全体周知。声掛け等について改善が</p>	3	33

		みられた。解決済み		
3	個人情報保護	「個人情報保護規程」および「特定個人情報取扱規程」に基づいて適切に対応	随時	

## 10. 法令遵守に関する取り組み

	実施項目	具体的取組	回数	人数
1	法令遵守	法令遵守推進に関する関係法令・条例・法人諸規定等に基づき適切に対応	随時	
2	「働きやすい職場」づくり	「TOKYO 働きやすい福祉の職場宣言」の継続した取組推進及び、「働き方改革」に対応した法人の取組との連携	随時	

## 11. 危機管理

	実施項目	具体的取組	回数	人(延)
1	防災関連	・ふれあい蓮沼防災訓練・施設内防災訓練実施 ・西蒲田二・三丁目自治会防災活動拠点会議参加	12 5	624 5
2	緊急時対応	「緊急時対応マニュアル」により対応することを職員間で共有	随時	

## 12. その他

平成30年度 第三者評価受審結果よりさらなる改善が望まれる点への取組計画

タイトル1	ミーティングや会議で検討・決定した結果について、支援マニュアル作成につなげていくことが期待される。
内容	日々のミーティングや職員会議等での検討を経て、決定された業務手順や改善された支援方法等をマニュアルに反映するしくみが不十分なため、法人統一の既存の支援マニュアルをもとにしながら、事業所での検討や更新を行う。
タイトル2	事業所が求める人材像と職員の能力向上とを着実に結びつけるために、個別育成計画を策定し学びの機会を確保されたい。
内容	自己評価表、自己申告書、職員キャリア形成シートや個別面談を基に明らかになった研修ニーズがあるが、個別の育成計画策定には至っていない。 職員キャリア形成シートや職員からの研修ニーズの聞き取りをもとに、個別の育成計画を策定、実施する。
タイトル3	定年退職後の利用ニーズが高まる中で、さらに特化したプログラムの作成等に取り組まれたい。
内容	定年退職した後にサービスを開始する利用者が増加してきているため、高齢に特化したプログラムの作成などの必要性がある。 高齢に特化したプログラムの検討と、ご本人の加齢段階に合わせたサービスの使い方(デイサービスとの併用)の推進を行う。